

所謂葡萄状神経瘤ニ就テ : Ueber das sogenannte Rankenneurom

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38691

ヲ圍ム層狀骨質ハ纖維性骨質ヨリモ若キ者ニシテ漸ク之ニ交代セントスル者ナリ
 検査ノ中點即チ外髁ノ中央軟骨ヲ被ムル所ヨリ漸ク内髁ニ向テ其ノ所見ヲ述フレハ軟骨ハ漸
 ク薄ク遂ニ全ク消亡シ骨質露出ス而シテ此ノ際軟骨ハ下面ヨリ蠶食セラレタルニ非ラスシテ
 破綻セル軟骨ハ其ノ表面ヨリ漸ク磨滅スルモノナリ、露出セル骨質ハ象牙様ニシテ第三例ニ同
 シキ磨滅ヲ見ル此ノ象牙様變化ハ甚タ緻密ナラス寧ロ固化セル海綿様質ニシテ其ノ髓腔ハ緻密
 ナル纖維組織骨様質或ハ破綻セル軟骨ノ痕趾ヲ含有ス、此ノ軟骨痕趾ハ細胞縮少シテ骨様質ト
 ナリタルモノ有リ、從來關節面ノ象牙様骨質内ニ軟骨様細胞ノ存在スルハ人ノ知ル所ナルモ然
 レモ此軟骨ヨリ變成セル骨質ハ骨髓ヨリハローウエル氏系トナリ新生セル骨質ニ壓排セラル、
 者ナリ何トナレハ凡テ象牙様變生ノ已ニ進ミタル所ニ於テハ軟骨様細胞ヲ見ズ前例ニ於テハ
 象牙様變成シタル骨ハ久シク存在セルヲ以テ其中ニ軟骨様細胞ヲ見ルヲ得ザリシナリ
 内外髁ノ境界及内顆ハ軟骨ヲ有スルモ之レ已ニ全ク破綻シ此纖維性組織ハ内外髁境界ニ於テ
 深く海綿様質内ニ進入シ茲ニ骨様或ハ軟骨様質ヲ形成シ或ハ自然纖維髓ニ移行ス (未完)

○所謂葡萄狀神經瘤ニ就テ

Ueber das sogenannte Rankenneuron.

醫學得業士 東 良 平

(澤金)

本例ハ第二十三回十全會例會ニ於テ講話ンタル者ニシテ今之ニ二三ノ訂正ヲ加ヘタル者ナリ

Depaul-Verneuil, Billroth 等ノ業蹟ニヨリ一般神經瘤ヨリ一種ノ蔓狀ヲ爲セル神經腫物所謂蔓狀神經瘤ヲ分類シテ以來此ノ腫物ニ關スル實驗報告頗ル多ク既ニ一千八百八十五年 Esnarch (1)ハ其著ニ於テ諸多ノ文献ヨリ二十六例ヲ集メ千八百九十二年 von. P. Bruns (2)ハ此腫物ノ第二ノ報告ニ當リ氏ノ八例ト共ニ世界ノ「リテラツール」ヨリ總計四十二例ヲ網羅シタリ爾來余ハ二三ノ「リテラツール」ヨリ Oivry (3), v. Büsch (4), v. Fietze (5), Goldmann (6), Lacroix-Bomaid (7), Audry-Lacroix (8), Menke (9), Riegner (10), Ramakers-Vincent (11), König (12), (11)例 Bergmann (13), Helreich (14), 諸氏ノ報告及ビ一昨々年第一回日本外科學會ニ於テ演舌セラレタル北川博士 (15)ノ一例ヲ舉ゲントス

以上諸家ノ報告直ニ五十有六例ニ達シ而カモ本腫物ハ殆ンド普通ノ例ニ屬シ現今世界ノ醫家ヨリ特ニ着目セラレザルモノナリ然ルニ余ノ爰ニ小實驗ヲ顧ミズ之レガ報告ヲ敢テセントスルハ猶ホ此腫物ノ學說ニ一定セザル所アレバナリ即チ

葡萄狀神經瘤ハ一ツノ假性神經瘤ニ屬シ結締織ノ増殖主ナル機能タルコトハ既ニ Bruns (2), Ziegler (15), Baumgarten (15), Klebs (16), Goldmann (6), Billroth (17), Winwarter (18), Thomson, (19), Ramakers (20), König (21) 等ノ諸氏ニヨリテ確定セラレタル所ナリ然レモ此神經瘤ノ増殖セル結締織ノ起原ニ就テハ未ダ一定セル所ヲ見ズ即チ Bruns, Baumgarten, Ziegler, Goldmann 等ノ諸氏ハ單ニ神經內鞘 Endoneurium (Perineurium, Virchow) 及ヒ神經外鞘 Perineurium (Nerven, Virchow)ノ結締織増殖ニ歸シ且ツ Ziegler (21)ハ主トシテ Endoneurium 外層ノ結締織増殖スルコトヲ記セリ Billrothハ

神經鞘結締織増殖ノ外同時ニ血管外層ノ細胞増殖ヲ認メ Winivarter 亦タ神經鞘結締織増殖ヲ見ルト雖モ神經内血管ノ結締織増殖ヲ以テ其主ナルモノトセリ

次ニ此假性神經瘤タル葡萄狀神經瘤ニ於テハ果シテ(一)神經纖維新生増殖スルモノナルヤ、若シ然リトスレバ有髓、無髓神經何レナルヤ(二)或ハ却テ萎縮ニ陥ルモノナルヤ(三)或ハ本症ニ於テ神經纖維ハ結締織増殖ニ無關係ノモノナルヤ等ハ尙ホ疑問ニ屬シ判然確定セズ今諸家ノ說ヲ舉クレハ畧ボ左ノ如シ

(1) Winivarter, Ozenny, (22) Carley ハ無髓神經纖維ノ新生ヲ認メ且ツ其新生ノ幼階級トシテ各々一種ノ紡錘形細胞ヲ記セリ Klebs モ亦神經ノ増殖ヲ是認シ有髓神經ノ軸索ハ其大サヲ増加シ次テ分岐シテ多數ノ無髓神經トナルヲ見タリ Heller, Hesserbach ハ殆ンド同様ノ所見ヲ有ス Bruns ハ有髓神經ノ増加ヲ認メ Perls (23) ハ兩者共ニ新生スルコトヲ述ベタリ其他 Krause(24) ハ悪性ニ變化シタル神經瘤ニ於テハ神經ノ新生スルコトヲ述ブ

(11) 然ルニ P. Bruns ハ初メ神經纖維ノ新生ヲ報告シタリト雖モ後第二回ノ調査ニ於テハ反對ノ結果ヲ發表シ神經纖維ハ此腫物内ニ於テ増殖セル結締織ノ爲メニ他働的ノ作用ヲ受ケ却テ Fibromatos (纖維様ニ萎縮シ又ハ全ク神經纖維ノ減少スルコトヲ確認シタリ而シテ Büschl, Helfreich, Billroth (17), Tietze, Hirtle, Pomorsky, Garre, Herzel (25), Landerer, Jordan, Schuster, Eulenbürg (26) 等ノ諸氏各々或ハ Bruns ト同ク纖維様變性 (Fibromatöse Entartung) 或ハ髓鞘ノ硝子様變性或ハ髓ノ裂隙或ハ強屈光體或ハ暗灰色顆粒、細小線條或ハ粘液體、脂肪形成等ノ諸變性ヲ見タリ

Goldmann ハ良性神經瘤ニ於テハ神經ノ萎縮ヲ見ザルモ惡性變化シタルモノニハ萎縮スルコトヲ述ベ Kräuse ニ反對ノ意見ヲ有セリ

(三)前述各學者ノ說ヲ參照スレバ結締織ノ爲メ神經纖維ノ萎縮ヲ主張シ或ハ新生増殖ヲ唱フルモノ多ク本症ニ於テ神經纖維ハ或ハ増殖シ或ハ萎縮ニ陥ルガ如シト雖モ唯ダ彼ノ葡萄狀神經瘤ト其本態同一ナル所ノ Neurofibrom ニ就テ Unna ハ神經ニ變化ヲ見ズシテ結締織細胞ノ粘液變性ニ歸スベキ Mastzellen ヲ認メタリ又 Züsch (27) ハ肉眼的 Krieger, Vejas 等ノ髓鞘損失壓迫萎縮等ノ現象ヲ見タリト雖モ鏡下ニ於テハ確實ナル變性ノ兆ヲ認メザリシ即チ此ノ兩氏ノ所見ニ據レハ神經纖維瘤中ノ神經ニ變化無キコトアルナリ

以上ノ諸點ハ此ノ腫物ニ就キ其學說ニ異同アル所ナリ
之レヨリ余ハ本例ノ小實驗ヲ記載スルニ當リ更ニ此腫物ノ發生原因ヲ述ベ猶ホ進ンデ本腫物ト類似ノ腫物ニ就キ聊カ説明スルノ必要ヲ信ズ之レ本腫物ノ發生原因ニ於テ多少意見ヲ異ニスル人アリ又タ一定ノ腫物ハ酷ダ此ノ腫物ニ類似スル所アレバナリ

葡萄狀神經瘤發生原因ニ就テ遺傳ノ大ニ關係ヲ有スルコトハ諸學者ノ是認スル所ナリ大多數ニ於テハ其父母或ハ祖父母兄弟姊妹ニ此腫物ヲ有シ然ラザルモ之レニ關係深キ疾病ヲ呈シ甚タシキハ一族祖父ヨリ父母兄弟ニ亘リテ同様ノ腫物ヲ發シタルコトハ嘗ツテ Czerny, Bruns 等ノ例証セシ所ナリ又此腫物ハ遺傳ニ等シク既ニ先天的ノ基礎ヲ有スルコト太シキモノニシテ Esmarch ハ其二十六例ニ於テ十一例ハ先天性ニ存シ十例ハ生後早キ年齡ニ發見シ一ツハ後年

ニ四六解剖ニ際シ發見セラレタリト一千八百九十一年 Bruns モ亦精密ナル統計ニヨリ之レヲ證明セリ即チ氏ノ集メタル四十二例中二十二例ハ確カニ先天性ニ存在シ十一例ハ一一九歳ノ間ニ呈ハレ九例ハ後年ニ發見サレタリ Goldmann モ亦フライブルグノ外科クリニックニ於テ實驗シタル五例ヲ基礎トシ本腫物ハ先天性ノ Bildungsanomalie ニ歸スベキモノトセリ如斯ク遺傳等ノ内因其主タルモノナルニ一方ニ於テハ本病ハ亦タ後天性ニ外傷及ビ炎性刺戟等ノ外因ニヨリ發生ヲ誘起スルモノナラザルヤヲ疑フ人アリ殊ニ Genersich, Schuster ハ其實驗ニ於テ是等ノ外因ニヨリ活潑ナル發育ヲナセシ例ヲ示セリ

葡萄狀神經瘤ト類似ノ腫物ハ既ニ Recklinghausen ノ記載セル多發性軟性纖維瘤 Multiple weiche Hautfibrom 所謂 Fibroma molluscum ナリ此ノ腫物ニ於テハ其狀態葡萄狀神經瘤ト同一ニシテ屢々蔓狀ノ排列ヲ形成シ大ナル結節又ハ太キ蜿蜒迂曲セル索ヲ呈ハス鏡下ニ於テモ亦タ纖維様ニ變性シタル神經纖維ヲ見ルナリ故ニ Bruns ハ神經幹ノ變化アルモノ (allgemeine Neuromatose) 或ハ一定ノ神經領分枝ノ變化アルモノ (Rankeenneuron) 或ハ皮膚神經末端ノ變化スルモノ (Fibromata mollusca) ヲ總括シテ Elephantiasis nervorum ト名ケタリ各症神經自己ノ變化ハ略ボ同一ナルモ軟性纖維瘤ハ即チ皮膚神經ノ終リニ於ケル腫物ニシテ全身何レノ神經分佈ヲ論セズ發生スル纖維瘤ナルニ乙ハ之ヨリ猶深部ノ神經ヲ犯シ一ノ神經分佈領ニ限局スル者ナリ (未完)

* * * * *